

四万十町浦越地区で発生した地すべり性山腹崩壊とその復旧について（その2）

1. 対策工の概要（暫定）

前回は、崩壊の発生から調査の実施及びその結果までを紹介しましたが、今回は調査結果を踏まえた対策工について紹介します。

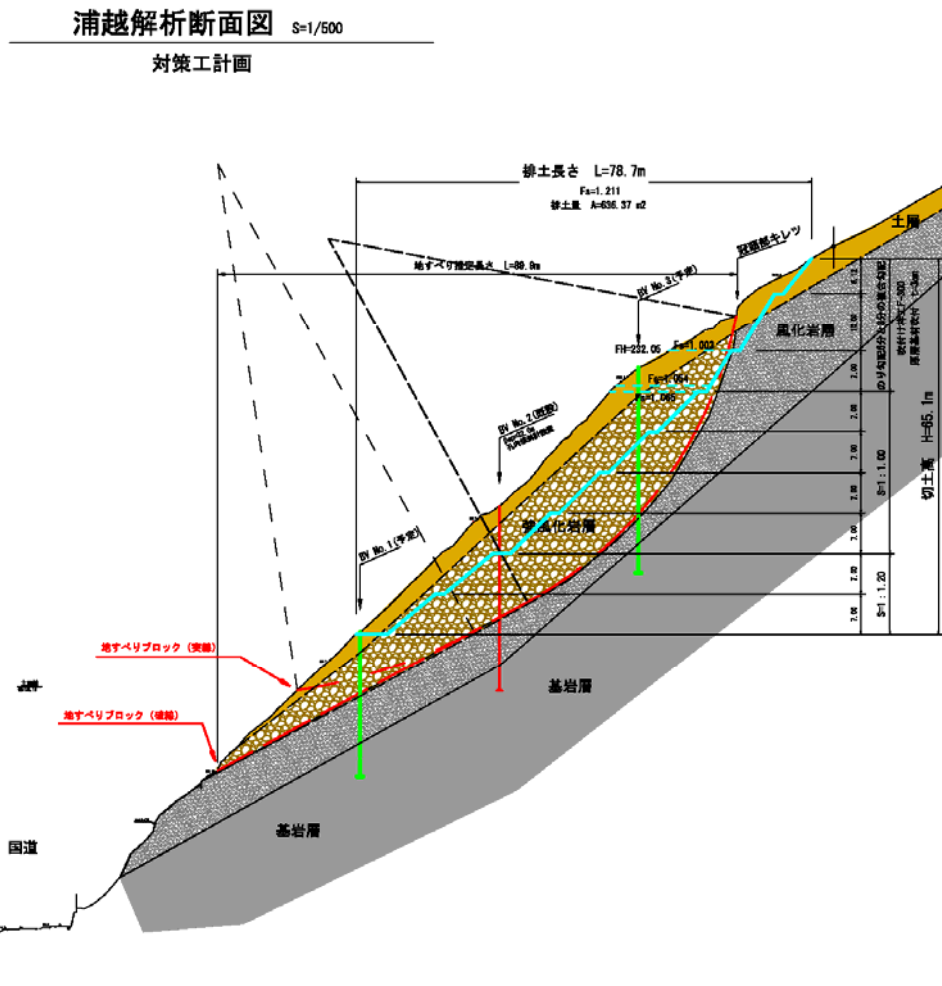
対策工の検討にあたって、

①現況の安全率^{*1}は、滑動が軽微ながら続いているため、0.98とし、目標の安全率は、地すべり性の崩壊現象が保全対象（国道）に隣接し、また、末端部の崩落が保全対象（国道）に到達しているため1.20とする。

②対策工は、経費が比較的安価となる抑制工^{*2}を基本とし検討も行うこととしました。

検討の結果、水色の線で斜面を掘削して土塊の重量を軽くし地すべり現象を抑制することとしました。

また、ボーリング調査を2か所追加して解析精度を向上させることとしました。



-----このページの用語解説-----

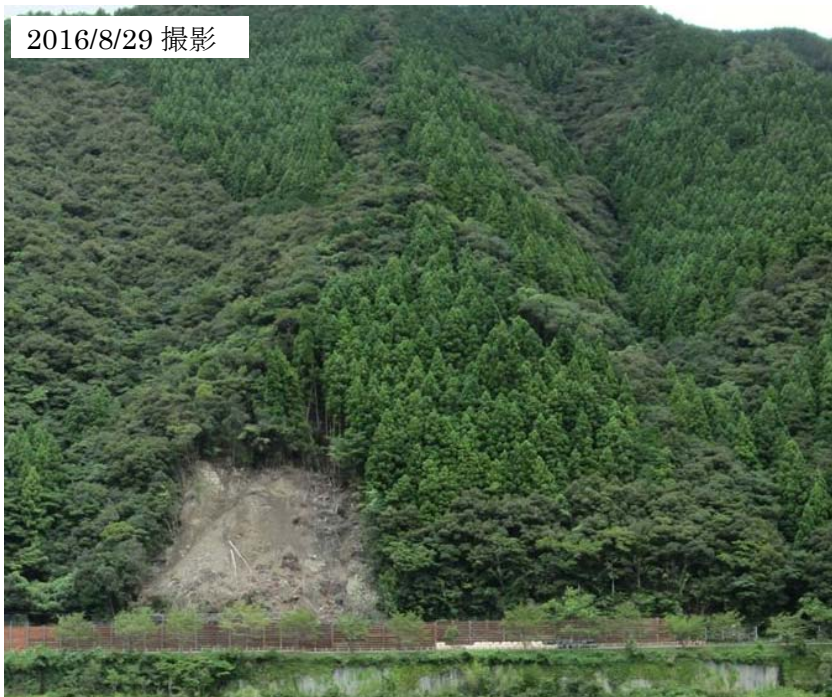
*1 安全率…地すべり工事等を行う場合にその工事量の算定基準となる目安。

通常は「土塊（斜面）の抵抗力÷土塊（斜面）の滑動力」で表される。

*2 抑制工…地形や地下水の状態など自然条件を変化させることによって抵抗力と滑動力のバランスを変化させ、地すべり運動を停止又は緩和させる工法。

今月の浦越復旧治山工事

復旧工事を実施する事でどの様に変化していくのかをお知らせしたいと思います。
※画像は大体同じ範囲が示せるように加工しています。



- 工事で5月から6月に実施していること
資材搬入用のケーブルクレーンの架設
現場内への掘削機械の搬入及び法切工
土砂搬出の為の作業スペースの設置 etc